

奥利根／矢木沢川 東メグリ沢～西メグリ沢

浅井

【日 時】 2006年9月30日～10月1日

【メンバー】石井(L)、浅井、田村

今年の7月下旬に矢木沢川のジロウシ沢に行った時、山口さんから東メグリ沢の話聞き、なかなかきれいな沢だということなので、機会があればいつか行ってみたいと思っていた。そこでこの週に泊まりの沢に行きたい石井さん、田村さんに提案してみたところ、お二人とも乗ってくれたので、早くも実現することになった。ちなみにお二人とも矢木沢は初めてとのこと。

このメグリ沢は04年の7月に「西メグリ沢～東メグリ沢」というコースで佐貫さん・山口さんたちが行っており、その記録(年報12号)には逆コースの方が楽しめると書かれている。今回はそれらを参考に「東メグリ沢遡行～布引山～西メグリ沢下降」という周遊コースにした。なおこの沢の名称は年報12号に倣い、『奥利根の山と谷』(白山書房)に従ったが、地形図では「東メグリ沢」が「西メグリ沢」、「西メグリ沢」が「赤羽コボラ沢」となっている。

9月30日(晴)

前夜、湯檜曾で仮眠し、早朝、矢木沢ダム方面に向かう。矢木沢ダムを見物した後、矢木沢の左岸沿いの林道を車止めまで入る。前回は矢木沢ダムに車を止めたが、ここまで車で入ってしまうと帰りが非常に楽だ。車止めのすぐ先がバックウォーターで、8:50、ここから入渓。前回来た時は大雨の直後で水量が多く、水も濁っていたが、今日は平水で穏やかな流れだ。沢に入ると田村さんはさっそくきのこ探しに忙しい。きのこに詳しい田村さんにいろいろ教えてもらいながら、ゆっくりペースで遡行する。結局この日は大収穫はなかったが、ナラタケやナメコをはじめ、何種類かのきのこはそこそこ採れた。

9:15、幽嵐沢出合着。ここで石井さんが竿を出すも釣果なし。ここから先はちょっとしたゴルジュになっており、水量の多い前回は通過に苦労したが、今日は水線通しに楽に通過できた。ブナ沢の先の深い淵を左から巻いて少し進むと、11:10、東メグリ沢出合着。天気もいいので、ここで大休止。石井さんはまた竿を出す、ここでも空振りに終わった。1時間近く休んだ後、東メグリ沢に入る。

出合のすぐ先の釜を持った2段4m滝を越えると、ナメ状の沢床が広がった。しかし倒木が多く、ナメが寸断されているのが残念。その倒木の一つにはナメコの幼菌が生えていた。しか

★ナメコの幼菌



し圧倒的に多いのは恐怖のツキヨタケだった。8m滝を右から巻くと、その先はきれいなナメといくつかのナメ滝が現れ、なかなかいい感じになってきた。13:50、地形図では「東メグリ沢」とある左俣出合着。水量比は2対3で我々の行く右俣が本流である。



右俣に入ると、しばらくナメが続いた後、20mの大きなナメ滝が現れた。地形図に滝マークのある大滝である。上部が立っているのも直登は無理そう。左のくの字状のルンゼから小さく高巻いた。その後はしばらくゴーロが続いた後、5m滝が二つ出てきたが、いずれも左から登れた。その先は再びきれいなナメが続いた後、15mのすだれ状の滝が出現。これは登れないので、右から高巻く。この後はゴーロもあったが、概ねきれいなナメが続き、快適に遡行できた。15:45、1370mの二俣着。ここから右俣に入る。

16:00、1400m付近の左岸にかろうじてツェルト一張り分のスペースを見つけたので、ここを泊まり場にする。やや狭苦しい所だったが、整地すると意外に快適で、焚火もしっかり出来た。この夜は石井さんの食当の豪華なのに驚いた。何と保冷パックに鴨鍋のセットを担ぎ上げてきたのだ！ 山でこんな高級食材を食べるのは初めて(笑)。かくしてその夜はオードブルに具がたっぷり載ったフランスパン、メインはきのこ入り鴨鍋という高級レストラン顔負けの御馳走に舌鼓を打った。満点の星空も広がり最高の夜だった。

10月1日(曇り)

今日の天気予報はあまりよくなかったが、案の定、朝からガスがかかっている。7:45、出発。幕場の先は少し開けた感じになり、すっきりしたナメが続く。ナメの先には2段8m滝が現れたが、下段がかぶっており登れないので左から高巻く。その先はまたナメと小滝が続くが、もう水量も細く、源流の趣である。つめは布引山の西の肩にあたる1626m付近を目指したが、少し西に寄り過ぎたようで、稜線に出てからも30分強のヤブ漕ぎを強いられた。稜線は紅葉が始まっていたが、あいにくのガスで展望は楽しめなかった。

9:20、ガスに包まれた布引山の頂に立つ。布引山は今年3月の会山行の時、山スキーで登ったばかりである。こうして今度は沢から同じ頂に立てたのはうれしい。もっとも山スキーでは快適に歩けた稜線も、無雪期はヤブが深く快適には歩けないが…。

山頂は風が強く寒いので、すぐ西メグリ沢への下降に入る。稜線を少し大烏帽子側を下った後、適当な所から北面の急斜面を下ると、すぐに窪みが出てきてやがて水も出てきた。所々赤茶けたナメも出てきて、快適に下っていく。やがて20m程の滝が出てきたので、懸垂で降りる。降りた所は3対2の二俣で、右沢は1736mの方に突き上げている。

出合から覗くと、つるつるの滝が連なっており、石井さんをして「越後系の沢だ」と言わしめた。

さらに進むと今度は2mのCS滝。ここはお助けロープで懸垂。その先は所々ナメがあったり、小滝やミニゴルジュがあったりという感じだったが、沢は全体的に荒れ気味で東メグリ沢に較べると見劣りがする。ただし途中の倒木でナメコの収穫があった。やがてまた2m程のCS滝にぶつかり、お助けで懸垂。その先で、下部の二俣に着く(12:20)。この辺りは04年の山口さんの記録にある通り、泥の押し出しが多く、一段と荒れた感じになっている。ここから矢木沢の本流までは距離的にはわずかだが、ゴルジュが出てきて、その中の3m滝はお助けで懸垂した。12:45、本流に出合う。少し先で大休止。昨日から狩猟民族と化した田村さんと石井さんは、すかさずきのこを探しに対岸の斜面を物色するが、めぼしい収穫はなし。

後は水量豊かな本流をゆったり下る。途中に幅広の滝や大きな淵があったりしてなかなかきれいだ。13:50、ジロウシ沢出合着。2ヶ月前に遡行したばかりの沢なので、懐かしい。さらに下り、魚止め滝を左岸から高巻くと、14:50、東メグリ沢出合。後は往路をどんどん下って、15:40、ゴールの車止めに着いた。

私にとっては今年二度目の矢木沢行きとなったが、今回も静かで充実した沢旅が楽しめた。東メグリ沢はナメがきれいな秀溪だったので、山口さんの言葉通り、東メグリ沢遡行～西メグリ沢下降が正解だと思う。

超豪華な食当を披露してくれた石井さん、きのこ博士の田村さん、楽しい山行どうもありがとうございました。

【行程】

- 9/30 車止め(8:50)～東メグリ沢出合(11:10～12:10)～1400m付近BP(16:00)
10/01 出発(7:45)～布引山(9:20)～西メグリ沢下降～矢木沢本流出合(12:45)
～ジロウシ沢出合(13:50)～東メグリ沢出合(14:50)～車止め(15:40)

【地形図】 藤原、茂倉岳

★東メグリ沢・中流部の滝



★西メグリ沢・CS滝の懸垂

